「環境と金融に関するシンポジウム」について

証券知識普及プロジェクト・平 18.8

昨今、クールビズやエコドライブ、マイバッグ持参といった日常生活における環境保全の取組みが広がりつつあり、今後はさらに、お金の流れを意識することによる環境への投資活動や預金を通じた環境保全の取組みが期待されている。

こうした中、環境省では、金融関係者や有識者等をメンバーとする「環境と金融に関する懇談会」を開催し、先般、社会的責任投資（ＳＲＩ）や環境配慮型融資の推進方策などについての提言をとりまとめ、公表した。

このような背景のもと、証券知識普及プロジェクト（※）では、環境省及び全国銀行協会の共催、金融庁の後援により、「環境等に配慮したお金の流れ」の拡大に向けて個人投資家や金融関係者等広く国民を対象に普及啓発を推進するため、「環境と金融に関するシンポジウム」を開催した。

以下にシンポジウムの概要等を紹介する。

（※）証券知識普及プロジェクトは、本協会、東京証券取引所、投資信託協会、ジャスダック証券取引所等の証券関係機関で構成されており、一般消費者向けのイベント開催や学校向けの教材提供等、証券知識の普及・啓発に関するさまざまな活動を展開している。

１．開催日時

平成１８年８月７日（月）　１３：３０～１６：００

２．開催場所

経団連ホール（東京・大手町）

３．来場者

３９６名

４．内容

（１）開演挨拶

まず、主催者を代表して投資信託協会の樋口会長が挨拶し、引き続き、小池環境大臣及び与謝野金融担当大臣からご挨拶いただいた。

樋口会長は、金融機関における環境への取組みの具体例としてＳＲＩファンド等を紹介しつつ、「1,500 兆円を超す個人金融資産が個人の価値観に近い形で運用され、その資金が企業を動かし、その企業の努力が、社会を地球環境に配慮したより良い方向に変えていく。このシンポジウムが、そんな社会の実現に向けた一つの契機となることを願う」と呼びかけた。

小池大臣は、「環境を良くすることが経済を良くするし、経済を良くすることが環境を良くする。こういった好循環をつくることが環境省の役目ではないか」とした上で、日本・米国・英国のＳＲＩ残高を紹介しつつ、「日本におけるＳＲＩは米国や英国に比べて桁違いに規模が小さいが、これはむしろ、これから大きな可能性を秘めているということ」と指摘した。

与謝野大臣は、「環境への配慮に優れた取組みを行っている企業に積極的に資金が流れていけば、環境問題に大きな貢献が可能」と指摘した上で、「環境のために金融が果たせる役割について、本日のシンポジウムの成果を踏まえて検討を深め、今後の政策に大いに生かしてまいりたい」と述べた。

（２）パネル・ディスカッション

『環境等に配慮した「お金」の流れの拡大に向けて』と題し、金融機関や企業等の実務担当者並びに有識者の方々をパネリストに迎え、各々の取組みの紹介をはじめ、現状の問題点や今後の展望などについて意見交換を行っていただいた。

〔パネリスト〕(50 音順)

大木　壮一氏　〔あずさサスティナビリティ(株)　代表取締役社長〕
笹之内雅幸氏　〔トヨタ自動車(株)　環境部担当部長〕
高橋　栄一氏　〔日興コーディアル証券(株)　執行役員〕
常陰　　均 氏　〔住友信託銀行(株)　取締役常務執行役員〕
西村　清彦氏　〔日本銀行 政策委員会 審議委員〕
平野　信行氏　〔(株)三菱東京ＵＦＪ銀行　常務取締役〕
藤井　良広氏　〔上智大学大学院　地球環境学研究科教授〕

〔要旨〕

- 環境等に配慮したお金の流れを拡大させるためには、企業の社会的責任（ＣＳＲ）に基づく取組みが市場で積極的に評価されることが必要である。
- 現状では、企業のＣＳＲの取組みに関する情報が市場に十分に提供されているとは言い難く、情報を適正に評価する仕組みも確立されていない。
- 今後の課題として、企業、投資家や預金者、双方をつなぐ金融機関、市場関係者ひいては行政といった各々の主体の役割や課題を明確にして、連携を深めながら取組みを進める必要がある。
- 投資家の資金をＳＲＩに呼び込むためには、金融機関が提供する金融商品が投資家にとって魅力的なものであることが必須である。
- 投資家や預金者には、金融資産の運用が自己の価値観を社会に反映させる手段となり得ることを自覚し、自らのお金の使われ方に関心を持ち、投資先や預金先を選択する際の判断基準として「ＣＳＲの取組状況」を加えるなど、行動を変えていくことが求められる。

５．来場者向けアンケート結果

別紙のとおりである。

環境と金融に関するシンポジウムのアンケート結果

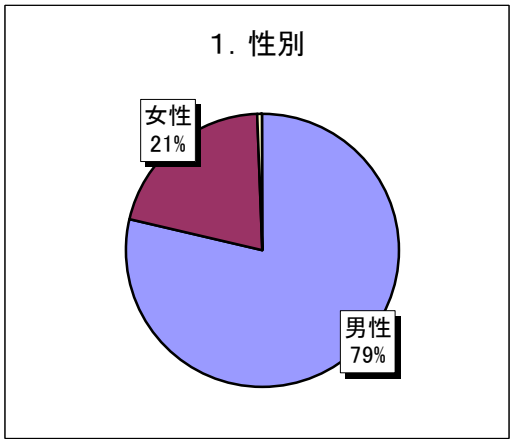
平成18年8月7日・経団連ホール

☆参加者396名のうち、239名が回答

Ⅰ．属性

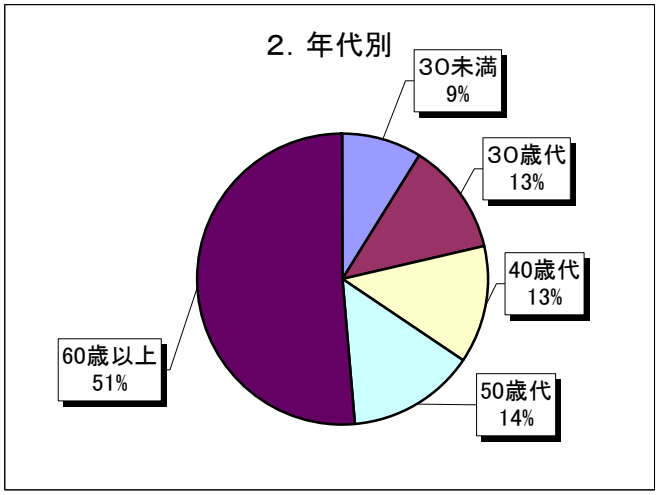
1．性別

1．性別	人数
男性	188
女性	50
無回答	1
合計	239



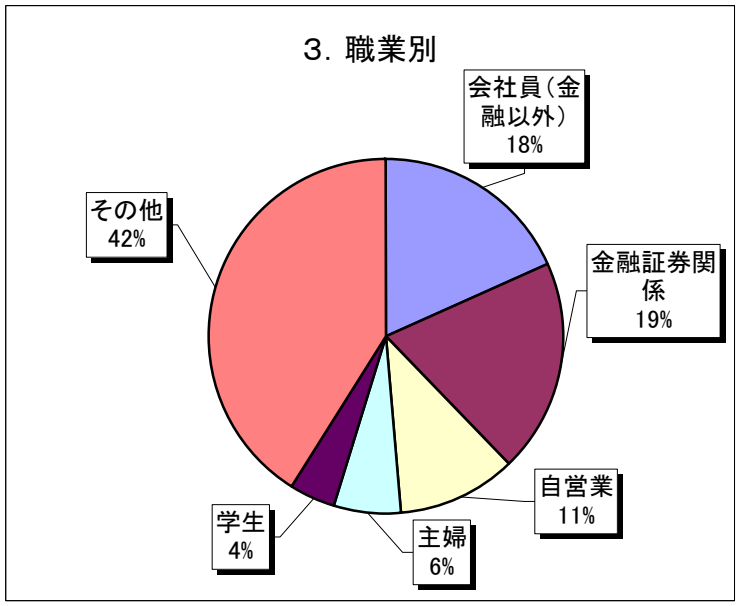
2．年代別

2．年代別	人数
30未満	21
30歳代	30
40歳代	31
50歳代	34
60歳以上	123
合計	239



3．職業別

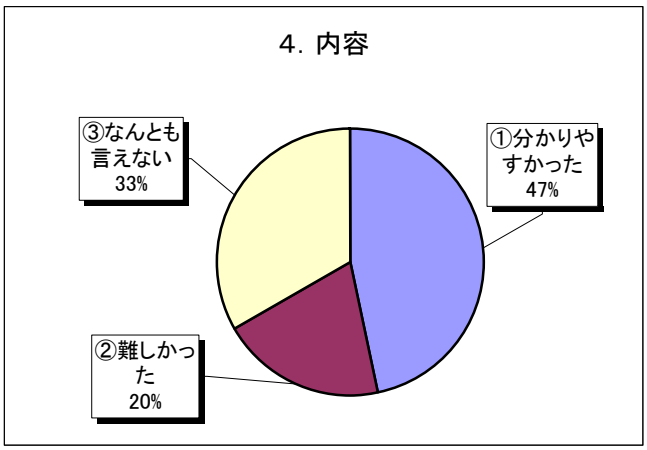
3．職業別	人数
会社員（金融以外）	44
金融証券関係	46
自営業	26
主婦	15
学生	10
その他	98
合計	239



Ⅱ. シンポジウムの内容について

4. 内容

4. 内容	人数
①分かりやすかった	105
②難しかった	45
③なんとも言えない	75

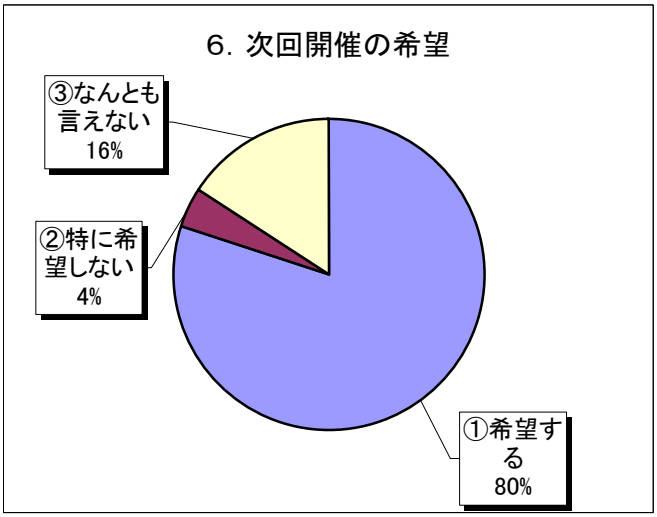


5. 興味を持った内容

※別紙参照

6. 次回開催の希望

6. 次回開催の希望	人数
①希望する	183
②特に希望しない	10
③なんとも言えない	36



Ⅲ. 意見・要望

※別紙参照

「環境と金融に関するシンポジウム」に関する来場者の主な意見等

■パネル・ディスカッションの中で興味を持った内容

○ 「志ある投資」を他の機関とつなげる仕組みをいかに構築するかという西村氏の考え方（同様２４件）
○ 金融業界におけるＣＳＲないしＳＲＩに関する取組内容について（同様６件）
○ エコファンドと企業の情報開示について（同様２件）
○ 製造業の側からのＳＲＩに対する考え方が金融機関と相違した点（同様３件）
○ 欧米のＣＳＲの模倣ではなく、日本独自のＣＳＲの創造が大切であるという意見（同様３件）

■意見・要望

○ 金融も環境に大きく影響を与える可能性があることを知ることができた。
○ 出身・立場の異なる知識人の組み合わせによるパネル・ディスカッションはとても有意義であった。欲を言えば、日本の優秀な環境技術を紹介してほしかった。
○ 金融機関の意識改革の一層の後押しのため、こうした催しの継続開催はメッセージの発信として意味があると考える。
○ 具体的な資料を用いて議論してほしかった。また、実際に借りた人、貸した人が一体どういう変化を感じたのか、その例を具体的に知りたいと思った。
○ 長期的視野に立てば、企業の環境に対する活動を評価し、投資することが持続的成長を形作ることにつながるのは分かる。しかし、短期的にみれば、その投資が投資家、企業、社会にとってどのようなメリットを生むのかは見定めにくい。政府・企業・個人という各主体がどう行動するのがより良い結末を持つのか、負の側面を含め、もっと具体的に示してほしいと思った。
○ 年金基金等の投資家の意見も聞きたかった。
○ 各地域での金融機関と環境問題との関わり方とか、環境団体（ＮＰＯ）との関わり方を含めたシンポジウムの開催をお願いしたい。全国的な広がりが必要だと思う。
○ ＳＲＩファンドに個人投資家の資金を集めるための成功事例ないし優遇措置（税制・手数料）が不可欠であり、それらの積極的なＰＲも欠かせない。
○ 廃棄物処理業者である自社は地域環境への影響が大きいと思われるが、今回のパネル・ディスカッションはスケールの大きい話ばかりで、自社のような中小企業にとってはピンとこない話であった。特に融資面で優遇措置を中小企業にも適用していただきたい。

以　上